

研修テーマ	桜の診断・樹勢回復 ～押さえておきたい桜の特性～	参加者	埼玉支部 23名 他県支部 13名
講師	西山 正大 氏 (公財)日本花の会、樹木医 (埼玉県支部)	場所	Withyou さいたま 視聴覚セミナー室
資料	「抑えておきたい桜の特性」講義資料 ～P-point での解説～	記録	成山久広
目的	日本人が最も好む樹木のひとつが「桜」であり、また診断相談を多く受ける樹木でもある。本研修では「サクラ」に関する基本的な知識やその特性を再学習し、「サクラ」を診断・保護する際の注意点について理解を深めることを目的とする。		

■研修内容

(第一部)「サクラ」の植物分類、生態的特性および生理的特性について

「サクラ」の分類、形状、生態的特性についての整理。

- 近年の分類、学名 (種名・栽培 (園芸) 品種名)。
- 世界のサクラの分布、日本の分布域や野生種、品種による花・葉・萼筒と萼片の形状比較。
- 生態的特性・生理的特性として、腐朽病害に対する抵抗性や忌地現象があり、サクラを長寿命に維持するにはサクラの特性に対応した生育環境や管理が重要。



講師：西山氏



講義風景



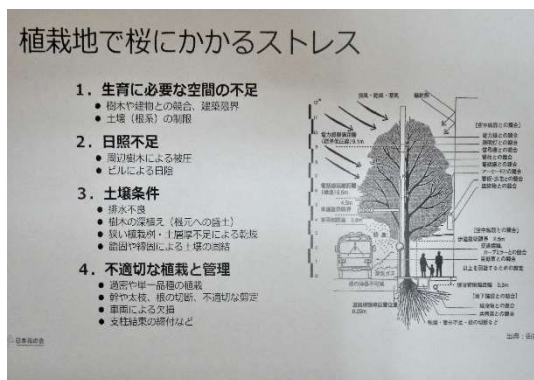
桜の特性

(第二部)「サクラ」の樹勢回復事例、環境適応試験植樹、生育害事例について

古木 (山高神代ザクラ) の樹勢回復事例の経緯と実際の治療方法、長野・臥竜公園での「染井吉野」の保護・管理活動事例の紹介。特に、臥竜公園の「染井吉野」については、桜を守る地域の人々の存在が必要不可欠であり、異常の早期発見～早期対策が治療への重要な役割を果たしている好事例である。

臨海地 (お台場海浜公園) での「染井吉野」、大漁桜・オオシマザクラによる耐性試験の事例紹介では、より環境適応性があると思われる「大漁桜」・オオシマザクラの生育が良好であった。

この他、「染井吉野」の生育障害事例や「サクラ」の樹勢衰退や幹の折損等の事例が見られる。



植栽地で桜にかかるストレス

### (第三部)「サクラ」の増殖法について

「桜」の増殖方法については、有性生殖としての実生、無性生殖として接ぎ木や挿し木(マザクラ系)が挙げられ、それぞれの特性により活着や生育の優劣に違いが生じる。また、接ぎ木においては台木の違いによって、親和性や成長速度の違いが生じる。

方法		特長
有性生殖	実生	数多くの苗木を容易に生産することができる 新しい品種をつくることができる
	接ぎ木	特定の個体を増やすことができる 実生より開花するまでの期間を短縮できる
無性生殖	挿し木	マメザクラ系の種類に限られるが、完全なクローンができる 実生より開花するまでの期間を短縮できる
	その他 取り木・株分けなど	生産性が低く、種類も限られるが、完全なクローンができる 実生より開花するまでの期間を短縮できる
	組織培養 (メソカルチャー)	高度な設備・技術が必要だが、完全なクローンができる 実生より開花するまでの期間を短縮できる

樹木の増殖方法

樹木の品種系統 <small>(マザクラ系)</small>	台木の増殖方法	
	実生台 (挿し木で実生)	挿し台 (挿し木で実生)
オオシマザクラ系	オオシマザクラ	マザクラ <sup>①</sup> 別名: アオハダザクラ、アオハザクラなど
エドヒガン系	エドヒガン	ヒガンダイザクラ <sup>②</sup> もしくは、クイオウザクラ系

↑ 活箱の問題      ↑ 生育の問題  
注1: シオシマザクラとオオシマザクラ系品種の確性と推定。  
 注2: コヒガン系の品種。

接ぎ木の種類

最後に「サクラ」の病害虫として、近年発生している増生病(仮称)、近年猛威を振るっているクビアカツヤカミキリやカシノナガキクイムシについての事例の他、異常気象による樹勢衰退・枯損や“桜が咲かなくなる?”・“満開にならない”などの事例が見られる。

